

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

## 回答率

アンケート実施期間: 2023年12月  
結果公表日: 2024年3月27日

事業所職員: 6名回答、回答率 100%  
保護者様: 22名回答、回答率 88%

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・教室環境については、教室が2階にあり、教室を使用する際は、階段の上り下りが必須となるため、気を付ける必要があるが、必ず指導員がついて対応している。教室内に関しては、児童が見る掲示物は、文字だけでなく、イラストや写真を貼って情報をわかりやすしたり、別の空間が必要な際は、相談室でクーリングの時間を過ごしたり、職員体制上難しい時には、テントや段ボールの仕切りなどで、落ち着ける空間を作る等工夫している。
- ・人員体制については、法令上の人員基準は満たしているものの、主に送迎の時間帯において職員数が限られてしまうため、事前に個別課題など準備をして、対比の人数が多くなったときに安全管理をしっかり行えるようさらに工夫をしていく。

### ○業務改善

- ・計画的に研修が実施されており、常勤・非常勤共にも参加出来る様スケジュールが組まれている。
- ・送迎等で保護者から頂いた意見はスタッフ間で共有し、支援をよりよいものにできるよう書面やミーティング等で共有し支援に生かしている。
- ・昨年第三者評価を受審し、客観的に指摘された部分をフィードバックして教室内で実行している。

### ○適切な支援の提供

- ・年間目標とそれに伴う月間目標を意識した内容になるように活動のミーティングで意見を出し合い活動プログラムを立案している。5領域をバランスよく設定して、同じような活動でも目的を変えて行なうことで固定化しないよう工夫している。
- ・取り組める時間や内容を、細かく検討して課題を設定している。長期休みや祝日では課外活動や調理活動など全体を通し、じっくり取り組める活動などを通して活動のメリハリをつけている。
- ・準備が必要な物を改めて全体で共有し、協力して準備を進めることによってより余裕を持ちながら適切に支援につなげていく必要がある。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・保護者から利用前にお子様について情報はいただき、教室に見学に来たケースワーカーには細かく最近の様子など情報を共有し連携している。今使っている児童に関しては、送迎時対面にて、毎回様子をお伝えし学校等の様子などもお聞きすることができており、移動支援や自己入退室のためお会いすることができない保護者には、電話やメールにてご連絡をすることで連携を取っている。

### ○保護者への説明責任等

- ・定期的に保護者参観を開催し、お子さまの普段の様子を見て頂くことや保護者交流、相談の場として懇談会を実施している。

### ○非常時等の対応

- ・月に一度様々なテーマで避難訓練を実施し、利用者も含め緊急時迅速な対応ができるよう確認する事が出来ている。また、適宜、教室内で非常時に関する研修を実施し、職員間で周知することが出来ている。

# 保護者様のご意見

## ○環境・体制整備

- ・「人数のわりに狭い」「いつものびのびとすごさせていただいてます」「活動スペースが工夫されていて安心していただけます」とのご意見を戴いた。保護者会などで環境を見ていただいているが、必要なものをさらに精査し、より広く使えるよう工夫していく必要がある。

## ○適切な支援の提供

- ・活動プログラムが固定化しないよう工夫されているとの回答が9割以上あり、「かなり工夫されていると思います」「課外活動は多いと思います」「長所は褒め、短所は上げて頂けるなど本人の個性を大事に、常に寄り添って頂けて感謝します」との意見を戴いた。児童同士のトラブルを見たという意見もあったため、普段の関わり方・介入の仕方を含めて保護者にお伝えすることで安心につなげていく。

## ○保護者への説明等

- ・「保護者会等を土日祝などの休日に日程を組んでいただき、参加しやすく感謝している」との意見を戴いた。
- ・「子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか」の質問に対して9割以上の方から「はい」の回答を戴いた。一方で自己評価については、知らなかったとの意見もいただいたため、すべてのご家庭に周知が行き届く様に入会時の説明などでもしっかりとお伝えしていく必要がある。

## ○非常時等の対応

- ・「日常からたくさん訓練をしていただいているおかげでしっかり万一の時の対応が入っている気がしている」「避難訓練をしているのは知っているがいざという時の避難場所がわからないため教えて頂けると助かる」との意見を戴いたため、避難場所について再度周知をしていく。

## ○満足度

- ・9割以上の方から毎回子どもが楽しみに通っているという意見を戴けた。
- ・「個別・集団での療育・アクティビティがあり有意義な時間を過ごせている」「親子で満足している」「親子ともに寄り添って頂けている」という意見もあった。言語療法のイベントについての希望もいただいたため、今後検討していきたい。

# 昨年度の振り返り

## ○今年度の取り組む具体策

- ・玩具の配置を変え、片付けやおもちゃの出し入れ等お子様それぞれが自ら行うことが出来る空間づくりを行うとともに机の配置など活動時広く使いやすいように配置を変更する。
- ・活動内の学年に合わせた役割を増やし、集団の中でも年齢にそった意識が出来るように支援内容を検討し、実行する。
- ・地域交流の為、イベントを調べて小さくても1つは参加することで地域交流の機会を設けていく。

## ○改善できた点・まだ残る課題

- ・玩具の配置自体は変えてはいないが、玩具を取りに行く動線は変更し出し入れはしやすくなった。自ら玩具の出し入れする空間づくりは、お子様たちの活動や学習に考慮しつつ、状況を加味しながら継続検討していく必要がある。また、ロッカーの配置を検討し、より行動しやすい動線の確保と部屋を広く使えるよう検討していく。
- ・専門的支援で学年や年齢に沿った活動を実施することが増え、年齢に合わせた活動を昨年度よりは多く取り入れることが出来た。
- ・地域交流の為のイベント参加は直前のお知らせであったり、会場が広すぎたりと参加が難しかった。公共の施設や、お店に行くことを増やして地域と交流する方法を引き続き模索していきたい。

# アンケート結果からみる教室の強み・改善点

## ○教室の強み

- ・活動プログラムが固定化しないように全職員で多角的に考え、取り組める時間や内容を検討して課題を設定し提供できている。
- ・利用者が毎回通所を楽しみにしてくれている。
- ・保護者の話を聞いて相談に乗ることができている。
- ・様々なご家庭が参加できるように保護者参観の日を設けている。

## ○改善点

- ・教室の大きく使えるよう、机の配置などを再度検討し、年齢や活動にあった空間が作れるよう職員で話し合い、棚の位置等を変更する。
- ・地域交流が少ないため、他事業所との交流の検討や地域の商店への買い物体験など地域の資源を活用することで交流の機会を増やしていく。
- ・避難場所など緊急時の対応や活動についてなど、すべてのご家庭が知っていただけるように、口頭・書面・電話などを利用しアナウンスしていく。

# 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

## ○中長期的な改善計画

- ・お子様の入退室時間に合わせて1日のスケジュールを見直し、支援の質の向上や空間の確保に繋がるプログラムの整備を行い、お子様の自主で行える事を増やすことで生活力の向上につなげていく。
- ・地域の資源を中心として、課外療育活動を企画し実行していく。
- ・年齢に合わせた支援が出来るよう、教室でそれぞれの役割や活動内での目的を変えていくことで年齢に合わせた支援の実現を目指していく。
- ・避難場所や活動の報告など書面だけでなく、お電話でご説明などを行うことで教室からのお知らせについてすべてのご家庭に理解してご利用いただける形を作る。
- ・普段の様子がお伝え出来るよう療育参観の機会を引き続き作っていく。

## ○1年間で取り組む具体策

- ・スタッフや利用者の動線を教室内で検討し、スケジュールを組み立てて、ロッカーの場所や玩具等の場所の見直しを行う。
- ・祝日、土曜、学校休校日に公共の施設やお店に行くことを増やして地域交流を図っていく。
- ・小集団など年齢に合わせて活動を行うことで、年齢に合わせた活動を増やしていく。
- ・緊急時の対応について改めてすべてのご家庭に書面等で提示する。
- ・療育参観の機会を前期後期各1回は設定する。